

# 善福寺川整備工事（その205）工事説明会

## 議事要旨

### 1. 開催概要

日 時：令和3年10月25日（月曜日） 19：00～20：40

場 所：杉並区立松溪中学校

参加者：11名

### 2. 説明内容

1) 事業の概要

2) 工事概要

### 3. 主なご質問・ご意見と都の回答（要旨）

Q1-1 (説明資料の)45ページの工事工程表について、今回の工事が完了するのが2月の下旬ということだが、その日にちほどのくらい前後の許容量があるのか。

A1-1 今の予定では令和6年2月27日が工期となっている。

Q1-2 何かいろいろなことがあって遅れる場合があるだろうけど、わかった。その工事が遅れると都から相応のペナルティか何かかかるのか。どんなペナルティがかかるのか。

A1-2 基本的には受注者の責で遅れた場合にはペナルティがかかることになる。受注者から遅延金ということでお金をとることになる。ただ、例えば気象条件などやむを得ない理由で遅れた場合に関してはペナルティはかからない。

Q1-3 その場合、我々住民についてはどういうものが代わりとして入るのか。工事業者からはペナルティをとって我々には何もお詫びはないのか、言葉だけか。

A1-3 補償というものはないが、我々としてはきちんと遅れた理由等を説明していきたいと考えている。これまで、いつの間にか伸びていたという意見をいただいております、しっかりと説明をしていく。

Q2 クランプクレーンというのは非常に便利なクレーンのようなのだが、これの事故歴は調べているのか。パイプの上を尺取虫みたいにして移動していくようだが、移動するときに非常に危なっかしい。しかもアームが17メートルということだがあれが伸びると怖くてしょうがない。事故歴を調べて教えてほしい。

A2 わかりました。現状では調べていないが、我々も施工開始前にはちゃんと調べて全員に周知、徹底していく。

Q3-1 騒音と振動の基準について説明をお願いします。

- A3-1 今回の工事で最も音が出る作業としては、環境確保条例指定の締固め機の作業、掘削作業、構造物の取壊し作業が想定される。都の環境確保条例に基づいて、敷地境界において騒音で80デシベル以下、振動で70デシベル以下、これを必ず守って作業をしていく。
- Q3-2 今回工事は非常に長い工事になるが、最も騒音と振動が大きくなりそうな心配のある箇所はどのへんか。
- A3-2 今回は重機で川底を掘削するのでその時が一番考えられる。掘削する時やダンプに積み込む音が想定されるので、ゴムマットを引いたりして音がでないように作業を行いたい。
- Q3-3 そういう話は前にもあったが、全然守らずにガンガン音がしてた。こちらがクレームをつけてからようやく対応するという状況だった。今回の会社は、これからの工事なので過去のことは知らないよと言うかもしれないけど、我々はずっとそれを2年半か3年繰り返してきた。もっと言うと、クランプクレーンの排気ガスが真っ黒で一面に臭いが充満する。これは健康によろしくない。
- A3-3 わかりました。
- Q4 工事後の、遊歩道の状況、あるいはフェンス、それがいつになったら工事前に戻るのか。管理用通路工というのは工事用の道のことか、それとも従来の遊歩道というか川沿いの道のことか。一般の人が通行できるようになるのか。
- A4 今回の工事が完了すると、今まで通りの遊歩道として管理用通路を開放させていただく。開放時期は、神通橋より上流側については少なくとも神通橋の開通までには開放して、皆さんが使えるような状態に戻るように考えている。フェンスについては、今の工事用の柵ではなくて、しっかりとした転落防止柵を設置する。
- Q5-1 今、西田端橋と神通橋の間に止まっている。先ほど上流側の話も出たが、工事車両の搬入路が確保できないと聞いた。今の道の状況を見ると永久にできないのではないかと想像する。そうすると神通橋から西田端橋の中間点で工事が止まり、その状態がずっと続くのではないかと想像するのだが、その辺の計画はどう考えているか。どう考えても五日市街道から搬入できる通路を確保できるとは思えない。
- A5-1 上流側の工事については、先ほど説明をした通り西田端橋側から工事を実施するが、そこに入ってくる道が狭いということで調整している。大きな車が入って行かないと工事を進められないというところもあり、今ある現況の道だけでは入っていけないので、例えばどこか一部をお借りするとか、どのように入っていくのかを調整しているところである。
- Q5-2 調整はわかる。ある意味当初から計画がありながら、全く打開策が見えていないという状況がおそらく何年も続いていると思う。仮に向こう5年調整がつかなかった場合、今回の工事はこれから3年くらいで一度終わるので、そこで新しい道を確保するための期間をずっとこの中途半端な状態で続けていくのか。一度そこは見切って、中間までの川の幅と下流側の川の幅が変わってきてしまうが、それを良しとしてやるようにしないと永遠に工事中の状態が続く。それはもう絶対にやめてもらいたい。この3年間の間に上流側が確保できないようだったら、一回そこで終了にしてほしい。そうしないと我々はいつも工事の中にいるという状況になってしまう。
- A5-2 わかりました。
- Q6 今話に出た神通橋のその場所に住んでいる。この工事が始まってもう2年半くらいたった。私もこの説明会に出て2回目である。まず説明会とはいったい何かということで3つくらい言いたい。

この説明用のスライドは非常にきれいでイラストも良いが、2年実際やっているるとすごい騒音と振動があつて我が家は苦しくなった。ですから説明会というのは、このスライドだけじゃなくて実際に騒音も出してほしい。そうしないと皆さんがわかったような感じになる。実は私もそうだった。今だまされた感じがする。説明方法をこれから考えてもらった方がいいと思う。

それからもう一つは、今ここに集まっている方はだいたい十何名である。この工事は誰のために何のためにやっているのかということだ。我々十何名のためじゃないわけだ。もっと何百人の方がいざというときの大雨の時から助かるためにやっていると思う。だから関心がない人が多い。そしてこの工事はごく一部の人が非常に極端に苦しい目に合う、それがわかった。そのことを今日ここへ来られない人へ意識を付けてほしい。具体的にじゃあどうするかというと、往復はがきを出して、来る人來ない人、まあ強制的に來いとは言えないけども、ここでこういうのがやっているよ、來ないなら來ないで結構だ。おそらくここへ來られない人たちというのは、「ああ、やってもらってよかったな」と思う人もいる。だからメリットとそのデメリットの差があまりにも多い。2年半経験してわかった。言いたいことはいっぱいある。今日は時間もないのでここに印刷をして持ってきたので、これを議事録に載せてほしい。前回の3月26日の(説明会の)議事録はできるのに3か月かかった。皆さん方もうちよつと真剣にやってほしい。だから議事録は1か月以内にみんなに出して、ここに参加しなかった人にこういう事情があったなということを知らせてもらいたい。

それから第3点、平成30年5月16日に西田小学校202工事の説明会で皆さんから配られたものを見ていたら、もうこの工事は今年で終わっている。事業スケジュールでは神通橋から西田端橋の工事は平成32年で終わっている。ですから、あまりにも遅れすぎるではないか。やはりこれは補償してほしい。遅れた理由がいっぱいある。事故があった、それから入札ミス。入札ミスというのは東京都と業者の間のやり取りである。我々住民にその入札ミスで6か月も遅れた、こんなことは当たり前だと思わないでほしい。これをちゃんと議事録に書いてほしい。こんな制度のもとでやっていけない。私は2年間の苦痛の工事を味わって感じたことをここに書いて来たのでみんなに見てほしい。

一週間くらい前に私の家に知らない不動産屋から2通の手紙が来た。隣の土地が売れましたから買いませんかと。この人は荻窪から逃げ出したんです。もう終わっているはずの工事がまだまだ延々と続く、そして荻窪から逃げ出す人がいる、これがみんなのためにやっている工事なのか。

色々な工事があるが一番は土肌が現れる工事である。こういうときに本当に大雨が来たら洪水どころじゃない。土手は決壊する。いざというときには土手が決壊するような工事をあなたたちはやっている。しかもそれを私たちに言わなかった。床上浸水のほうがまだましだ。人命にも危ない工事をやっている。それは反省をしてほしい。

今日は2年半たって総括をしないとだめ。総括があつて先に進む。総括してほしい。非常に苦しい思いをしたものと、非常にハッピーなメリットを受けるものの落差が大きいということを東京都が公がやっている。公が、不公平、差別をつくることを堂々とやっていて、当たり前だと思っている。この工事とはいったいなんなんだ。みんなで考えましょう。第三建設事務所だけではないと思う。それから入札が半年も遅れた。そのことに何の説明もない。また遅れたらどうするのか。この工事はおかしい工事だ。2年半の経験で私はわかった。

A6 まず1つ目が説明会でもう少し騒音や振動がわかるような方法を考えてほしいというご意見であるが、確かに騒音がどれくらい出るのか、はっきりお伝えできていないところはある。今後の課題として今後わかりやすい説明を考えていきたい。

説明会の周知の方法については、今回、神通橋から西田端橋の区間の川から約30mの範囲にお住まいの方にお知らせを配布しており、さらに自治会にも協力してもらい、回覧とか掲示板により相当な数の方に周知をした。説明会自体は強制的に参加していただくということはなかなか難しい。説明会に参加されなかった方には説明資料や議事録を配布して、今日あった内容についての周知を考えていきたい。

入札不調の件についてはご迷惑を掛けて申し訳ない。我々も積算基準をもとに入札金額を決めている。その中で、この工事は色々手間がかかるといったところで前回はお金が合わないということになったのかなと思う。今回は、そういった反省を踏まえ、施工規模の拡大をするなどの工夫を行い、今回こういった形で受注に至った。

Q7-1 今回の工事は、工事工程表で令和6年2月までに、現在の河川のくい打ちが終わっているところと、神通橋の架け替えと、神通橋の下流の工事が全部完了する予定だということである。問題になっているのは先ほどの質問にあった上流側であるが、上流の工事を始めるのがこの工事が完成した後に始めるのか、それとも途中で計画が可能になった場合に始めるのかということ。そうすると先ほどの方から話があったように、工事が永遠に続くことになるので、現在のレベルで工事を完成させる形で、河川の工事を一度見直すという選択肢があるかということである。

もう一つは、管理通路のレベルと周囲の住宅のレベルがどうなるかということ。この図を見ると、管理用通路のレベルが笠コンクリートのレベルになっている。そうすると現在のレベルよりも高くなる。少し護岸を高くしたほうが良いという意見もあるけれども、私の個人的な考えとしては、通路の雨水が川に流れた方がいいと思っている。というのは、護岸が少し高くなって、通路側に降った雨が川に流れなければ、予想以上の水が結局住宅側に流れることになる。そうすると神通橋と西田端橋の間の通路は、左岸側は2か所、右岸側は3か所くらいしかない。そうした水が通路を通して流れるわけなので、かなりの水が予想以上に流れることになると思う。ですからレベルの設定というのは丁寧に考えてほしいと思う。それからもう一つは、管理用通路の通常のレベルと、神通橋の橋ができたときのレベル、どれくらいの段差があるのか。それもわかっていれば教えてほしい。

やはり今日話を聞いた段階では、今回の計画が終わった段階で上流が進むというふうに理解したけれども、それでよろしいか。

A7-1 上流側の工事については、現在下流側を工事すると同時に調整を進めていて、調整が整えば工事には着手をしていきたいと考えている。

Q7-2 ですから工事が永遠に続く。上流側が始まればまた3年4年続く。いくら下流ができて、通しては河川の両側の管理用通路ができないということになる。そのところも考えると、工事の進め方にもやはり工夫が必要だし、実際その計画自体どういう形で進めるのか、それが非常に重要な問題だと思う。現在の段階で一度考え直して、実際の実行をどうするかということが必要だと思う。ただ私も近くに住んでいるので、西田端橋もかなり穴が開いたりなんかしている場所もあるので、どこまでするかということも重要な問題だとは思う。ですから、工事自体の進め方の問題と、豪雨に対する対策の方法としての防災、どのようなものが適切なのかというものと、それから、いわゆる騒音公害というのかこういう環境問題というものがあるので、それを加味して、どういう形で工事を進めるのがいいかということを経営的に、有機的に考えていかないといけない。一方的に今のままの形で続けていくと、同じような問題が繰り返し出てくるだろうし、それに対して、かなりの負担を強いられる方が実際に出てくるので、私はそこが重要な問題だと思う。ですから、実際はどのようにしていくかということ、それをお互い同士考えながら、どういう選択肢がいいのか考えていく必要がある。

この工事自体は1時間当たり75ミリということであるが、河川上に75ミリが降った値ではないと聞いている。周囲の地域の総合的な雨量の計算で出している。従来は50ミリだったのが、今75ミリになっているけれど、それで実際の河川の氾濫が完全に抑えられる保証はないわけだ。基本的には100パーセント抑えられるわけではないので、どういう形で調整するかということ。工事する側と、それから実際の地域の環境というものを考えてやっていかないといけない。それは非常に難しいと思う。そういうところが、ある意味では考え方として不足していた部分じゃないかと思う。ですからこれだけ何年もかかっている、ここでもう終わりにしてほしいという人も出てくる。私も基本的にはそういう考えである。もう少し何か他に手が無いのかということである。そういうことも含めて、完成した段階で一度考え直して、この先どういう形で工事を進めていくか、進めるなら進める、計画していく、そういうことが非常に必要な時期ではないかなとは思っている。そこをやっぱり真面目に考えてほしい。

A7-2 管理用通路のレベルの話ですが、基本的にはもともとの管理用通路とほぼ同じ高さとしている。極端に高くなったり低くなったりということはない。場所によってレベルは変わっているので、実際に施工する段階で確認をさせてほしい。

今後の工事の進め方については、先ほど説明した通り1時間当たり75ミリ、河道で50ミリの降雨に対応する護岸整備というのはやっていかなければならないところが大前提であるが、工事の進め方や総合的にというところでは、我々もやり方というものを考えていきたい。

合わせて、今後の上流側の工事をどうしていくかということで、都としては1時間当たり50ミリの護岸改修というのがまず最低ラインだと考えているので、今と同じような形で断面は広げていきたい。今説明したが、搬入路をどうするかというのがまだ決まっていない。それが決まり次第、どういった形で進めていくか、こういった説明会等も開いて説明したいと考えている。

先ほど100パーセントはないという話があった。もちろんそのとおりであるが、これまでの雨でシミュレーションすると、1時間50ミリ対応の断面があれば1つか2つの降雨以外は洪水を流すことができるというような結果もでている。我々としては、下流の神通橋のところにできている断面を上流側まで整備していきたいと考えている。

Q8-1 神通橋の下流に調節池ができた。あれはどれくらいの効率があるのか。

A8-1 今回一番初めに説明したが、調節池を造って上流側に河道を広げていくというような計画になっている。本来であれば川の整備というのは下流側から広げていかないと途中で溢れるが、善福寺川調節池を造って、そこを担保にして上流側に進めていくというような考え方である。

Q8-2 私その時説明会に出て質問したけれど、節水のレベルを設定するのがかなり難しいと思う。警戒水位というのは川に白線があって、そのあと都の方で氾濫レベルというのを設定した。氾濫レベルは上から30センチメートルもない。実際洪水が起きて警報が鳴った時に、水位が氾濫レベルまで来た時には、近辺の方は避難する時間がない。ところが調節池の節水レベルというのは、私の見た目測では白線のレベルぐらいではないか。白線のレベルを超える水は最近は少ないけれど結構ある。ついこの前の大雨の時も白線をゆうに超えていた。レベルの調節をどうするかというのは非常に難しいけれど、川の水が増水しているときには概算では1時間たたないうちに調節池はいっぱいになる。実際に設置された調節池の機能、どの程度効果的に働いているかという評価を我々には教えてほしい。そうしないと、実際我々近くにいるものとしては全然わからない形でどんどん進んでいくので困る。そこらへんをきちんとしてほしいなと思う。

A8-2 今調節池の下流側が断面ができていないので、下流側が溢れないように、上からの洪水がいかないように調節池で取水する。

Q8-3 ただ最初の時は、下流というそういう設定ではなかったと思う。その説明は私も受けたので、下流側の予防ということでひとつあるんだなと思った。今話があったのは、上流側に工事をするための調節池という話だった。逆ではないか。上流を工事するために調節池を設定しているというわけだから。

A8-3 上流側を広げることによって、水がたくさん流れて来るので、下流側にたくさん流れた水がいかないように、調節池で取水するという考え方になる。

Q8-4 そういうことではないのでは。オーバーフローしないよう、防ぐために調節池を造っているのではないか。善福寺川の氾濫を防ぐために一つの方策として調節池を造っている。

A8-4 その通りではあるが、今善福寺川の調節池から上流側を広げていくと、その分が下流側にたくさん水が流れて、整備の終わっていない下流側が溢れるという考え方である。そのため、たくさん流れる水を一部調節池で取って、下流が溢れないようにするという考え方になっている。

Q9-1 (説明資料の)3ページの地図を見ると、善福寺川の工事は今、3か所でやっているのか。

- A9-1 3か所でやっている。
- Q9-2 調節池は、和田堀の調節池だけか。新たに調節池を今造っているのか。それから環状七号線の地下の調節池は、黒い部分は終わっていて、北のほうに赤い線が入っているが、これは量的にどれくらい増やすのか。いつ頃完成するのか。
- A9-2 容量的には環七地下調節池が今54万トンとなっておりトンネルがつながれば倍くらいになる。トンネルがつながるのが令和7年度末を考えていて、そこでなんとか運用できないかということを考えている。
- Q9-3 それが完成すると、川下にどんどん水が流れていくのでこの辺に溜まるのがなくなる。水は今の護岸の流量と変わらなくても、どんどん下にスピーディーに流れていけば、この辺の氾濫の可能性が少なくなるのでは。
- A9-3 確かに実態としては多少そういうところもあるかもしれないが、計画論的には、調節池の効果というのが下流側に水を流さないということなので、上流側というのは河道を広げていく必要がある。
- Q9-4 善福寺川は距離は大したことない。だから今やっている工事も流量をもっと増やせばいい。せっかくこんな大それた工事をしているのだから。聞いたところ20パーセントぐらいしか流量が増えないらしい。わずか20パーセント流量を増やすのに、こんな大それた工事をして、しかも住民に多大な迷惑をかけて。同じ工事をするならもう50年先のことを考えて、できる範囲のことをやった方がいいのではないのか。こんなことをやっていたら、何年かたったら川幅広げるとか、流量増やすとか、また工事しなければならぬ。こういう無計画なことはやめてほしい。
- もう1点、神通橋と西田端橋の中間点より上流側の工事の話。そこから北側の話は、なかなか進まないようだが、同時並行で上流側も早く工事ができるように進めてもらわないと永遠にこの辺10年15年と工事が続くことになる。いくら公共工事とはいえこんなやり方はまずい。しっかり計画をたてて、同時並行で進むようにやってほしい。せっかく川の傍に住んで、いい環境で生活ができると思って引っ越して来たのに、もうこれでは全く価値がなくなる。なくなった価値は誰からも補填されない。私も終の住処だと思ってこっちに引っ越してきたけれど、せっかく今仕事も終わってゆっくりしている時期にガンガン工事されたらたまらない。だから上流側も、すぐ工事ができるように同時に進めてほしい。
- A9-4 都としてもできる範囲で進めていきたい。搬入路が狭いので、現在例えば長い鋼管杭を1本もので運べなければ、何本かに分けて運ぶなど施工方法も検討しており、できる限り早く着手していきたいと考えている。

以上

(東京都第三建設事務所作成)